

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：12603

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2018～2022

課題番号：17KK0021

研究課題名（和文）近現代イギリスにおける「人と動物の関係史」ー領域設定による総合的理解モデルの構築

研究課題名（英文）History of Human-Animal Relationships in Modern Britain

研究代表者

伊東 剛史（Ito, Takashi）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：10611080

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,800,000円

渡航期間： 12ヶ月

研究成果の概要（和文）：本共同研究の目的は、近代イギリスの動物福祉を主題とする基課題を発展させ、人間社会と動物との多面的関係を分析するための研究領域を開拓することであった。その結果として、T.ito, 'Flying Penguins in Japan's Northernmost Zoo', in Tracy McDonald and Daniel Vandersommer (eds) Zoo Studies: A New Humanities (Montreal: McGill Queens Univ, 2019), pp. 237-261等の国際共著論集など、多数の成果を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、持続可能な発展とエコツーリズムや、倫理的消費とヴィーガニズムなど、人と動物との関係をめぐる新たな価値観と行動様式が、日本社会に浸透しつつある。しかし、一方で、捕鯨問題のように動物の処遇に関する問題は、経済的利害と絡み合いながら、文化的な摩擦や対立構図を生み出している。このような状況において、人と動物の関係をめぐる理念、制度、実践の歴史を、動物愛護の先進国とみなされてきたイギリスの経験に即して、総合的に理解することの意義が、現在、非常に高まっている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this joint research was to deepen the understanding of the history of human-animal relationships in modern Britain. The project produced a number of publications including T.ito, 'Flying Penguins in Japan's Northernmost Zoo', in Tracy McDonald and Daniel Vandersommer (eds) Zoo Studies: A New Humanities (Montreal: McGill Queens Univ, 2019), pp. 237-261.

研究分野：イギリス史、動物史、感情史、痛みの文化史

キーワード：イギリス史 都市史 動物史 人と動物の関係史 感情史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年、持続可能な発展とエコリズムや、倫理的消費とヴィーガニズムなど、人と動物との関係をめぐる新たな価値観と行動様式が、日本社会に浸透しつつある。しかし、一方で、捕鯨問題のように動物の処遇に関する問題は、経済的利害と絡み合いながら、文化的な摩擦や対立構図を生み出している。とくに懸念されるのは、「西洋のキリスト教的動物観」対「日本の汎神論的動物観」のような二項対立の印象論が、根強く残る点である。実際には、西欧・北米諸国の中にも多様性があり、職業や収入、支持政党により動物観が異なる傾向がある。また、いわゆる西洋的動物観には、ダーウィン進化論とキリスト教的人道主義、ベンサム功利主義とカント義務論といった、一見相反する思想的潮流が流れ込んでいる。さらに、それは西洋世界から内面的に発展したのではなく、非西洋との文化的接触・交渉からも影響を受けてきた。したがって、これらの複雑な実態や多様性を捨象せずに、人と動物の関係をめぐる理念、制度、実践の歴史を総合的に理解することが、現在、強く求められる。

2. 研究の目的

このような状況において、本共同研究の目的は、近代イギリスの動物福祉を主題とする基課題を進展させ、人間社会と動物との多元的關係を分析するための研究領域を開拓し、それにより、19~20世紀イギリスにおける「人と動物の関係史」の総合的な理解モデルを構築することであった。研究計画の中心は、人の動物に対する感情的反応に着目し、ベルリンのマックス・プランク人間発達研究所感情史研究センターにおいて、感情史の理論研究を行うことであった。それにくわえ、イギリスにおいて体系的な史料調査を実施し、理論的考察と史料分析との往還により、「人と動物の関係史」の作業仮説を検証することも重要であった。最終的には、多くの人々が特定の動物に対する感情的反応を共有し、互いに共感を覚える市民社会がいかに形成されたのかを、歴史学の視点から解明することを目指した。

3. 研究の方法

本研究プロジェクトの基課題にあたる先行プロジェクトにより、近現代イギリスの動物福祉の基層には、ダーウィン進化論とベンサム功利主義があることが確認されていた。その一方で、次のような新しい課題も発見された。それは、上記の科学理論と倫理規範だけでは、動物福祉が大きな社会的影響力を持った理由を十分説明できない点である。とくに、動物救済に対する幅広い共感が生まれた理由を説明できない。この問題を解決するには、人と動物の間に展開した多様な関係性の全体像を、制度や規範の観点からだけではなく、感情的側面から探求する必要がある。そこで本プロジェクトは、動物が惹起する多様な感情的反応に焦点をあて、動物福祉の領域だけでなく、その外部に広がる研究領域を開拓する。この複合領域を横断的、相関的に分析し、「人と動物の関係史」の総合的な理解モデルを構築することが本研究は次のような研究方法をとった(図1)。

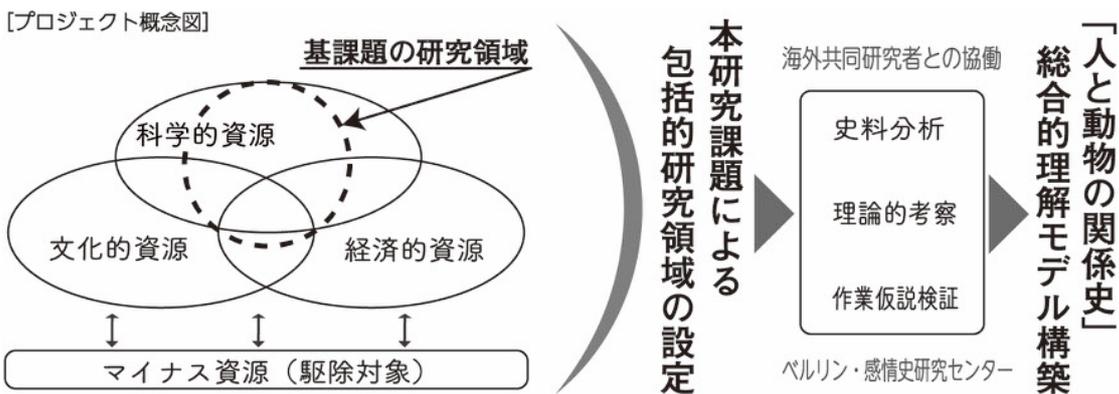


図1：基課題から本課題への展開

また、史料の分析方法として次のようにアプローチする。まず、1) 指南書等の規範的文書・図像史料を分析し、ヴィクトリア時代の価値体系のもとで、ある動物に対する特定の感情(例: 犬、家畜に対する愛情や支配欲)がどう評価され、個人の感情表現がどのように誘発されたり、制限されたりしたのかを考察する。次に、2) 日記や書簡等のエゴ・ドキュメントに基づき、感情表現に関する規範がどの程度受容されたのかを、個人的な感情経験の視点から検証する。さらに、3) 新聞雑誌等の大衆メディアの調査から、感情表現の標準化を促し、大衆読者層に特定の感情表現を共有させる圧力を解析する。一連の史料分析と感情史の理論研究に基づき、下記

の作業仮説の検証を通じて、総合的理解モデルを構築する。

さらに、作業仮説として、次のようモデルを用意し、研究の進捗に応じて、検証、修正するものとする。1)19世紀前半、動物を都市社会の重要な構成員とみなす認識が広まり、動物には愛玩、娯楽、使役、駆除の対象として、様々な感情が向けられるようになった。2)19世紀後半、実験動物への同情や、愛玩動物への愛情など、特定の動物に対する感情を共有する人々が緩やかな紐帯を形成し、社会の諸領域で政治的影響を持つようになった。3)20世紀以降、特定の動物に向けられる感情が規範化される一方、規範から逸脱した人々の差別化が進行した。その結果、逸脱者を排除または教化しながら、総体としては、多くの人々が動物に対する感情的反応を共有し、互いに共感を覚える市民社会が形成された。

4. 研究成果

プロジェクトの成果として、2点の国際共著論文集が得られた。まず、T. Ito, 'Flying Penguins in Japan's Northernmost Zoo', in Tracy McDonald and Daniel Vandersommer (eds) *Zoo Studies: A New Humanities* (Montreal: McGill Queens Univ, 2019), pp. 237–261.は、北米を拠点とするアニマル・スタディーズの共同研究に参画したことを契機とし、感情史、動物史の研究手法を日本の旭山動物園の歴史の分析に応用したものである。それにより、欧米の動物園の歴史的軌跡とは異なる、日本の動物園の歴史的歩みを批判的にトレースし、日本における「いのち」をめぐる動物観をとりあげた。一方、Takashi Ito, 'History of the Zoo', in Mieke Roscher, André Kriebler and Brett Mizelle (eds), *Handbook of Historical Animal Studies* (Berlin: De Gruyter Oldenbourg, 2021), pp. 441–457.は、動物史の分野で初となる概説書に、動物園史の研究状況と今後の展望について寄稿したものである。この他にも、原稿のとりまとめと査読に時間を要したため、研究期間終了までに発表することができなかったが、科学史の国際学術誌の特集号に投稿した論文もある。これも本プロジェクトによる滞在先のベルリンにおいて、新たに構築した研究者ネットワークにより可能になった成果である。

日本語の論文では、今回のプロジェクトによって新たに発掘された史料の考察に基づくものが得られた。そのひとつは、ミカドキジという台湾固有の鳥種に関するものである。この鳥は阿里山などの標高の高い山林に生息する希少種であるが、1906年にロンドン自然史博物館の鳥類学者が一对の尾羽をもとに新種として記載した。実は、その時の標本は、台湾から送られてきた一对の尾羽のみであり、その尾羽だけがもとで新種と認められたのである(図2)。さらに、命名の手がかりが少ないなかで、ミカドキジと名付けられることになった。なぜ、この鳥が、そのように命名されたのかという問いは、20世紀初頭の東アジア・東南アジアの動物採集、生物分布調査の歴史と、それが環境保全へと展開するプロセスを問う研究へと発展した。その研究の成果として、伊東剛史「新種発見の感情史——「鳥学共同体」における栄誉と名誉」中村靖子編『予測と創発——理知と感情の人文科学』(春風社、2022年) 277–313頁；伊東剛史「翻案される動物史——なぜ、ミカドキジはミカドキジと名づけられたのか？」志村真幸編『動物たちの日本近代——ひとびとはその死と痛みをいかに向き合ってきたのか』(ナカニシヤ書店、2023年7月刊行予定)等の成果が得られた。

最終的な研究成果報告の一部として、2022年度末に、ヒトと動物の関係学会において、シンポジウム「どこまでが動物なのか——人文科学から考える」を企画運営し、自らも研究報告を行った。



図2：ミカドキジのタイプ標本（ロンドン自然史所蔵）
© Jonathan Jackson, Natural History Museum, London.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 26
2. 論文標題 動物園展示と動物園史におけるアニマル・ターン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 動物観研究	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 312
2. 論文標題 二ホンライチョウの記載に関する歴史研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 専修大学人文科学研究所月報	6. 最初と最後の頁 17-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34360/00012217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 49巻12号
2. 論文標題 進化論の被造物	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 60-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 305
2. 論文標題 20世紀初頭のフィリピン南部における鳥類採集－新種の発見と命名をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 専修大学人文科学研究所月報	6. 最初と最後の頁 25-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34360/00011363	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 感情史の萌芽と心理学－ホイジンガとフェーヴル	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.5.1_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 48(16)
2. 論文標題 ダーウィンとストリキニーネ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 5
2. 論文標題 感情史の萌芽と心理学 ホイジンガとフェーヴル	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 in print
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 269
2. 論文標題 (書評)並松信久『農の科学史 イギリス「所領知」の革新と制度化』(名古屋大学出版会、2016年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋史学	6. 最初と最後の頁 87-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 22
2. 論文標題 犬になるということ (書評) 大石高典・近藤祉秋・池田光穂編『犬からみた人類史』(勉生出版、2019年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 129-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 24
2. 論文標題 イギリスにおける動物福祉の歴史 現代日本の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 動物観研究	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Ito	4. 巻 134
2. 論文標題 Review of Gary Bruce, Through the Lion Gate: A History of the Berlin Zoo (Oxford: Oxford University Press, 2017)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 English Historical Review	6. 最初と最後の頁 1328-1330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ehr/cez254	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 300
2. 論文標題 ミカドキジの命名、採集、および保全繁殖の歴史に関する基礎研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 専修大学人文科学研究所月報	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00010083	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊東剛史	4. 巻 11
2. 論文標題 現代のプロメテウス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ピエリア	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Ito	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Gary Bruce, Through the Lion Gate: A History of the Berlin Zoo, Oxford: Oxford University Press, 2017	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 English Historical Review	6. 最初と最後の頁 accepted
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Ito	4. 巻 109
2. 論文標題 Daniel E. Bender. The Animal Game: Searching for Wildness at the American Zoo. 393 pp., figs., index. Cambridge, Mass./London: Harvard University Press, 2016. \$39.95 (cloth).	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Isis	6. 最初と最後の頁 432 ~ 433
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1086/698253	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件(うち招待講演 7件/うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Takashi Ito
2. 発表標題 The Logistics of Bird Collecting in the Age of Empires: The Finding and Naming of the Mikado Pheasant
3. 学会等名 Logistical Natures Workshop (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊東剛史
2. 発表標題 動物園史の現在
3. 学会等名 動物観研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊東剛史
2. 発表標題 気候馴化と動物資源管理の歴史－19世紀イギリスを中心に
3. 学会等名 上智大学地球環境研究所「サステナビリティとダーウィニズムについて考える」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊東剛史
2. 発表標題 感情史の理論と実践
3. 学会等名 東北大学国際文化研究科国際日本研究講座企画公開講演(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takashi Ito
2. 発表標題 The Logistics of Bird Collecting in the Age of Empires: Walter Goodfellow's Expedition to Taiwan, New Guinea and the Philippines
3. 学会等名 International Workshop on Logistical Nature: Trade, Traffics and Transformations in Natural History Collecting (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takashi Ito
2. 発表標題 The Honour of Naming a New Species: Emotional Communities of Naturalists in the Early Twentieth Century,
3. 学会等名 Colloquium, Centre for the History of Emotions, Max Plank Institute for Human Development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊東剛史
2. 発表標題 (コメンテーター) 『犬からみた人類史』を読んで, 書評会: 大石高典、近藤祉秋、池田光穂編 『犬からみた人類史』 (勉誠出版、2019年)
3. 学会等名 東京外国語大学海外事情研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Ito
2. 発表標題 Building the Ark in Modern Rome: Animals and Architecture in Post-Regency London
3. 学会等名 International Workshop on Genius Loci and Accumulation of Memories (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Ito
2. 発表標題 The Legacy of Enlightenment Science?: The Identification and Identity of Animal Species in the Age of Empires
3. 学会等名 International Conference on Enlightenment and Identity (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Ito
2. 発表標題 The Naming of the Mikado Pheasant: Ornithology, Aviculture and Zoogeography in the Age of Empires
3. 学会等名 International Society for the History, Philosophy and Social Studies of Biology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊東剛史
2. 発表標題 動物園の価値と評価－歴史学の視点から
3. 学会等名 動物園学を考える会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊東剛史
2. 発表標題 動物園と科学の関係－黎明期のロンドン動物園を題材として
3. 学会等名 日本科学史学会科学史学校 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊東剛史
2. 発表標題 イギリスにおける動物福祉の歴史－現代日本の視点から
3. 学会等名 動物観研究会公開ゼミナール2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊東剛史
2. 発表標題 科学の大衆化が専門分科と専門職業化に及ぼした影響－19世紀のロンドン動物学協会を事例に
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Ito
2. 発表標題 Commentator
3. 学会等名 International Forestry Networks and Knowledge Production (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Ito
2. 発表標題 Commentator
3. 学会等名 Humanity and the Post-Human in Mary Shelley ' s Frankenstein (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 Takashi Ito	4. 発行年 2021年
2. 出版社 De Gruyter Oldenbourg	5. 総ページ数 -
3. 書名 History of the Zoo. Mieke Roscher, Andre Krebber and Brett Mizelle (eds), Handbook of Historical Animal Studies, pp. 439-455	

1. 著者名 伊東剛史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 -
3. 書名 ロンドン動物学会と動物学の制度化 専門分科の分岐点：大野誠編『近代イギリス科学の社会史』, pp. 144-166	

1. 著者名 伊東剛史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 -
3. 書名 (共訳) パーバラ・H・ローゼンワイン/ リッカルド・クリスティアーニ『感情史とは何か』, pp. 42-97	

1. 著者名 伊東剛史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 -
3. 書名 ロンドン動物学会と動物学の制度化 専門分科の分岐点：大野誠編『近代イギリス科学の社会史』	

1. 著者名 Takashi Ito	4. 発行年 2019年
2. 出版社 McGill-Queen's University Press	5. 総ページ数 -
3. 書名 Flying Penguins in Japan's Northernmost Zoo, in Tracy McDonald and Dan Vandersommers (eds) Zoo studies: a new humanities, pp. 237-261	

1. 著者名 Takashi Ito	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Boydell & Brewer / Royal Historical Society	5. 総ページ数 226
3. 書名 London Zoo and the Victorians, 1828_1859, paperback edition	

1. 著者名 伊東剛史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 -
3. 書名 解説「なぜ今、感情史なのか」ウーテ・フレーフェルト（櫻井文子訳）『歴史の中の感情』, 209-216	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ドイツ	マックス・プランク人間発達研究所		